

ココが面白い!

ジオパークでは大地だけでなく、その上に成り立つ「生き物」や「人々の暮らし」に関心を向けることも大切にしています。

ここでは、秋田県湯沢市広澤寺の歴史とその境内にある乳神大イチョウ(乳信仰)に主に焦点をあて、そこから見出すことのできる、かつての湯沢市の様子を考えていきます。



樹齢200年

乳神大イチョウ

広澤寺の乳神大イチョウとは?

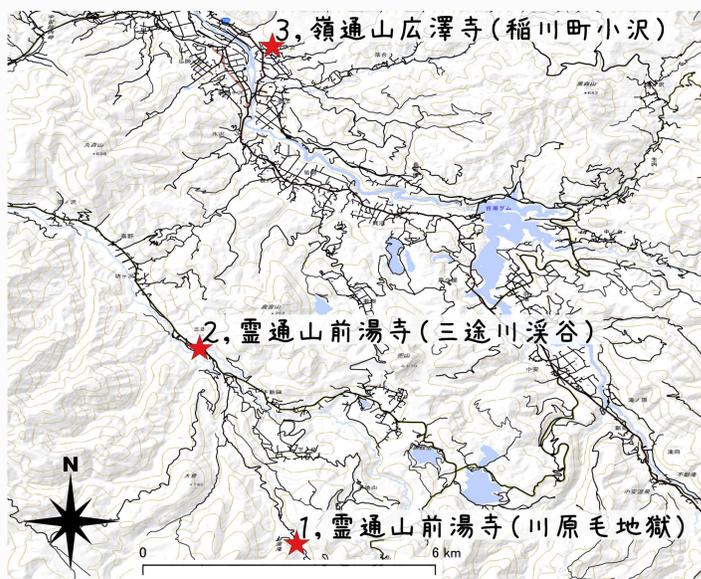
イチョウは巨樹になると、幹に瘤のようなものができます。これを気根と呼び、英語ではChi Chiと言ったりもします。気根は根を生やすこともあれば枝や幹に変化することもある組織です。

これが、乳房を連想させることから、イチョウの巨樹が乳の出を祈る願掛けの対象となっています。

乳信仰について

樹への信仰は世界で見受けられますが、イチョウなどの樹に対する「乳信仰」は日本ならではのものとして位置づけられています。

前近代における子育てにおいて、乳の出の良し悪しは子の死に結び付くことから、母親が母乳の出を祈願する風習が日本各地で生まれたようです。



国土地理院 基盤地図情報を利用

広澤寺の歴史と由来

1457年、稲庭城主 小野寺道広が、三途川溪谷にあった霊通山前湯寺を稲川町小沢に移し、寺号を嶺通山広澤寺と改め、先祖代々の冥福を祈る菩提寺としました。これが広澤寺のはじまりです。

1789年には火災による焼失のため、現在の本堂(柱4本の鐘楼門で入母屋造り)が再建されました。この頃、乳神大イチョウが境内に植樹されたと考えられます。

川原毛地獄とその大地

807年、月窓和尚が川原毛地獄に霊通山前湯寺と称する庵寺を建て、千日間山籠もりをしたのが広澤寺の起源とされています。参詣人は川原毛地獄を見ることで畏怖を抱き、信仰心が高まったと言われています。川原毛地獄の火山性ガス(硫酸)が珪酸を除く岩石成分を溶かし、大地を白くして地獄のような景色になりました。

1390年頃、梅檀上人が前湯寺を川原毛地獄から三途川溪谷の方へ移しました。

まとめ

川原毛地獄に対する畏怖により信仰心を高めた寺は、時代の変遷とともに子を大切に思う場所としての役割も果たしました。

引用文献: 児島恭子(2018) イチョウ巨樹の乳信仰: 歴史研究の資料に関する課題. 札幌学院大学人文学会紀要103:73-85.



気根



嶺通山広澤寺



鐘楼門



川原毛地獄